

茨城県景気ウォッチャー調査結果 (平成18年12月調査)

調査の目的

- ・経済の第一線で働いている人々から、景気に関する生の情報を得ます。
- ・その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに、迅速に公表します。
- ・県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となります。

調査の概要

- ・調査客体数…県内各地域（県北，県央，鹿行，県南，県西）ごとに60名，計300名です。
- ・調査内容…景気の現状，先行き判断とその判断理由を質問します。
- ・調査時期…四半期（6，9，12，3月）ごとに実施し，翌月公表します。

結果の概要 (回答率 94.3%)

景気現状判断 DI	景気先行き判断 DI	※ DI (Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の一つであり、景気の方角性（景気が上向きか下向きか）をみるもので、50が横這いを表しています。茨城県景気ウォッチャー調査では、回答を区分ごとに点数であらわし、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出しています。
県全体 51.7 (-0.3)	県全体 48.3 (-5.4)	
県北地域 52.2 (+3.1)	県北地域 48.2 (-6.2)	
県央地域 50.4 (-5.6)	県央地域 50.9 (-2.1)	
鹿行地域 53.6 (+0.5)	鹿行地域 47.8 (-1.8)	
県南地域 51.3 (-1.3)	県南地域 47.5 (-12.6)	
県西地域 50.9 (+1.8)	県西地域 47.3 (-4.0)	

※()は前回調査(平成18年9月)との比較をしたものです。

- 3か月前と比較した景気の現状判断 DI は、前期（9月調査）比0.3ポイント低下の51.7となったものの、横這いを表す50を平成17年12月調査以来5期連続で上回りました。

「家計動向関連 DI」は前期比0.3ポイント低下の50.1と、ほぼ横這いであった。これは、年末需要により飲食業やサービス業は好調であったものの、全体的に消費者の財布のヒモは固く、特に小売業で客単価が伸び悩んでいるとの声が聞かれたことなどによる。「企業動向関連 DI」は原材料高の影響が続いているとの声が聞かれたことなどから前期比1.5ポイント低下したものの、2期連続で50を上回っている。また、「雇用関連 DI」は14期連続で50を上回っており、求人数が増加している一方、求職者数は減少しているとの声が多く、特に派遣社員の求人が目立つとの声が聞かれた。

＜主な判断理由＞

- ・客は必要なモノしか購入せず、衝動買いをしなくなっている。同じ商品であれば低価格のスーパーで購入するなど購入店の使い分けが上手である。
(コンビニエンスストア)
- ・宴会部門においては、忘年会等により多少良くなっている。また、宿泊に関しても、飲酒運転の取締り強化もあり増加している。
(都市型ホテル)
- ・売上げが前年比10%弱減少している一方、材料価格は前年比20~40%弱上昇しており、収益が悪化してきている。
(製造業〔非鉄金属〕)
- ・燃料費が低下せず、また、運賃の値上げ交渉もできないため、売上げが伸びない。貨物の保管も、引合いはあるが成約に至らない。各地区の倉庫も空いている状態のようである。
(運輸業〔道路貨物運送業〕)
- ・求人数が増加している一方、求職者は減少している。
(公共職業安定所)

- 3か月前の景気の先行き判断 DI は、前期（9月調査）比5.4ポイント低下の48.3となり、横這いを表す50を平成17年6月調査以来6期ぶりに下回りました。

「家計動向関連 DI」は4期ぶりに、「企業動向関連 DI」は6期ぶりにそれぞれ50を下回った。所得に伸びが期待できないため、個人消費の停滞を懸念する声や、製造業などでは一部から受注の増加が見込めないとの声が聞かれた。一方、「雇用関連 DI」は8期連続で50を上回っており、引き続き求人数の増加及び求職者数の減少が見込まれるとの声が聞かれた。

＜主な判断理由＞

- ・給与額に変化がなく、客の消費動向にも変化はないため、売行きが良くなる見込みはない。(コンビニエンスストア)
- ・飲酒運転の取締り強化の影響は今後も続き、夜間外食の機会が減少する傾向はそのまま続くと思う。(洋食食堂)
- ・都心部からの受注は微増が続いているものの、地元の得意先からの受注が少なく、今後も改善の見込みがない。
(製造業〔食料品〕)
- ・公共事業が減少しているため、薄利で受注する企業が増えている。(建設業〔設備工事業〕)
- ・求職者(登録者)の減少は今後も続くと思われる。(民間職業紹介業)

地域別の動向

地域別の現状判断 DI は、全地域で横這いを表す50を上回りました。

地域別の先行き判断 DI は、県央を除く4地域で横這いを表す50を下回りました。

1 県北地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は52.2となりました。前期比3.1ポイント上昇し、横這いを表す50を4期ぶりに上回りました。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全ての DI が上昇しました。

＜主な判断理由＞

- ・小型曳網船は平年並みの水揚げであるが、まき網船においては「鯖」の大漁が続いている。また、漁船用の燃料が若干値下がりしている。(水産業関係者)
- ・高校生の就職内定率が高い。(学校就業関係者)

- (2) **先行き判断**：景気の先行き判断 DI は48.2となりました。前期比6.2ポイント低下し、横這いを表す50を4期ぶりに下回りました。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全ての DI が低下しました。

＜主な判断理由＞

- ・地元企業には活気が見られず、ボーナスが支給される中小企業は少ない。収入の減少により消費に影響があると思われる。(小売業〔酒類〕)
- ・材料費(非鉄金属類)が上昇しており、利益を圧迫している。(製造業〔電気機械器具〕)

2 県央地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は50.4となりました。前期比5.6ポイント低下したものの、横這いを表す50を5期連続で上回りました。また、現状判断 DI は全県を通じて最低となりました。業種別にみると、雇用関連 DI は上昇しましたが、家計動向関連 DI 及び企業動向関連 DI は低下しました。

＜主な判断理由＞

- ・小売業の売上げが伸びていない。大半の零細小売業での売上げは前年比マイナスの状況となっている。(サービス業〔コンサルタント業〕)
- ・求人数は増加しており、求職者数はかなり減少している。(求人開拓員)

- (2) **先行き判断**：景気の先行き判断 DI は50.9となりました。前期比2.1ポイント低下したものの、横這いを表す50を8期連続で上回りました。また、先行き判断 DI は全県を通じて最高となりました。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全ての DI が低下しました。

＜主な判断理由＞

- ・ボーナスが支給される時期となったが、昨年より増加したという話も聞かれず、消費の伸びは期待できない。(レストラン)
- ・新規の貨物の引合いが期待できそうもない。また、原材料高、燃料高を製品価格に転嫁できない。(運輸業〔道路貨物運送業〕)

3 鹿行地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は53.6となりました。前期比0.5ポイント上昇し、横這いを表す50を5期連続で上回りました。また、現状判断 DI は全県を通じて最高となりました。業種別にみると、家計動向関連 DI 及び雇用関連 DI は上昇しましたが、企業動向関連 DI は低下しました。

■調査から

〈主な判断理由〉

- ・年末ギフト商品の動きが良い。また、高額商品の売行きは良くないものの、3,000円以下の商品の販売数量がアップしている。
(スーパー)
- ・鳥インフルエンザの終息宣言により養鶏業界が活発になっている。このため、飼料業界は9月以降、出荷数量の増加が継続している。
(製造業〔飼料〕)

- (2) **先行き判断**：景気の先行き判断 DI は**47.8**となりました。前期比1.8ポイント低下し、**横這いを表す50を2期連続で下回りました**。業種別にみると、企業動向関連 DI は上昇しましたが、雇用関連 DI は横這い、家計動向関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・夏頃から下降し始めた売上げに回復の兆しはなく、先行きにも明るさが見えない。
(コンビニエンスストア)
- ・期末にかけて増産を見込んでおり、販売量も増加する見込みである。
(製造業〔化学工業〕)

4 県南地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は**51.3**となりました。前期比1.3ポイント低下したものの、**横這いを表す50を6期連続で上回りました**。業種別にみると、企業動向関連 DI 及び雇用関連 DI は上昇しましたが、家計動向関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・つくば地区においては、つくばエクスプレス開業による効果も一段落した感がある。
(タクシー運転手)
- ・求人企業は相変わらず多いが、求職者は減少してきている。また、このところ派遣会社からの求人依頼が増加している。
(雇用相談員)

- (2) **先行き判断**：景気の先行き判断 DI は**47.5**となりました。前期比12.6ポイント低下し、**横這いを表す50を6期ぶりに下回りました**。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全ての DI が低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・所得・賃金が現状と変わらないと思われる。
(衣料品販売店)
- ・受注は前年比10%弱減少する見込みであり、また、材料価格も上昇基調であるため、減収減益が予想される。
(製造業〔非鉄金属〕)

5 県西地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は**50.9**となりました。前期比1.8ポイント上昇し、**横這いを表す50を2期ぶりに上回りました**。業種別にみると、家計動向関連 DI は上昇しましたが、企業動向関連 DI 及び雇用関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

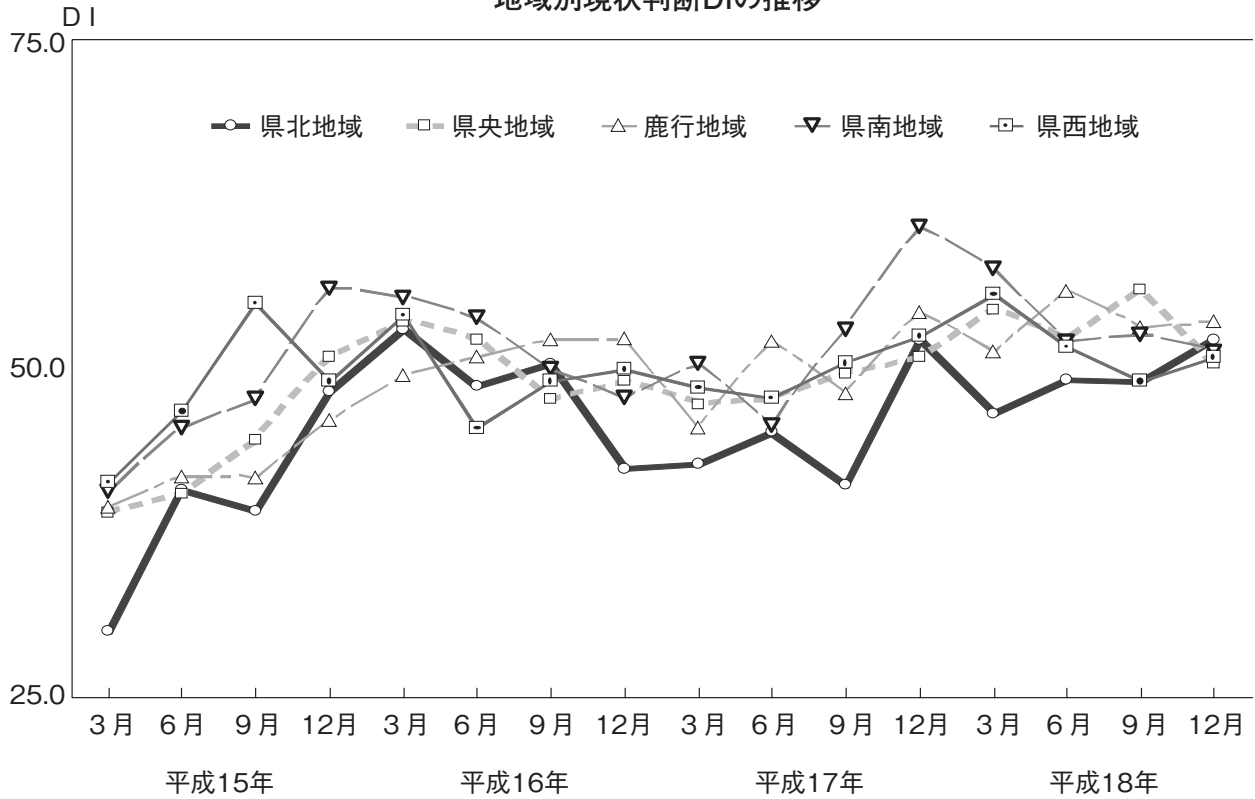
- ・飲酒運転の取締り強化のためフリーの客数が伸びないものの、忘年会時期となり良くなっていると感じられる。
(和食レストラン・割烹)
- ・官公庁の入札・見積金額が積算標準価格の半値といった例があり、過当競争が激化している。
(製造業〔印刷・同関連業〕)

- (2) **先行き判断**：先行き判断 DI は**47.3**となりました。前期比4.0ポイント低下し、**横這いを表す50を2期ぶりに下回りました**。また、**先行き判断 DI は全県を通じて最低となりました**。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全ての DI が低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・景気は上向いていると言われているが、当地域においては全く感じられない。顧客の中心である農家は米価の下落で元気がなく、建設業者は仕事が全くないとボヤいている。
(商店街代表者)
- ・例年受注量が減少する時期となり期待できない。
(製造業〔窯業・土石製品〕)

地域別現状判断DIの推移



地域別先行き判断DIの推移

